

SPring-8 運転・利用状況

財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

◎平成23年4～6月の運転・利用実績

SPring-8は4月4日から4月28日までセベラルバンチ運転で第1サイクルの運転を行い、5月9日から6月10日までセベラルバンチ運転で第2サイクルの運転を実施した。第1～2サイクルではクライストロンの電源異常によるアボート等による停止があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第1サイクルは約2.5%、第2サイクルは0.3%であった。

放射光利用実績（いずれも暫定値）については、実施された共同利用研究の実験数は、第1サイクルは合計183件、利用研究者は775名で、専用施設利用研究の実験数は合計120件、利用研究者は550名であった。第2サイクルは合計333件、利用研究者は1,604名で、専用施設利用研究の実験数は合計188件、利用研究者は906名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第1サイクル（4/4（月）～4/28（木））

第2サイクル（5/9（月）～6/10（金））

(2) 運転時間の内訳

第1サイクル

運転時間総計 約572時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約93時間

②放射光利用運転時間 約467時間

③故障等によるdown time 約12時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）

に対するdown timeの割合 約2.5%

第2サイクル

運転時間総計 約775時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約48時間

②放射光利用運転時間 約725時間

③故障等によるdown time 約2時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム＝②＋③）

に対するdown timeの割合 約0.3%

(3) 運転スペック等

第1サイクル（セベラルバンチ運転）

・11 bunch train×29

・1/7 filling+5 bunches

第2サイクル（セベラルバンチ運転）

・1/7 filling+5 bunches

・11 bunch train×29

・203 bunches

・入射は電流値優先モード（2～3分毎（マルチバンチ時）もしくは20～40秒毎（セベラルバンチ時））のTop-Upモードで実施。

・蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主なdown timeの原因

・クライストロン電源異常によるアボート

・クライストロン冷却水流量低によるアボート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第1サイクル（4/7（木）～4/27（水））

第2サイクル（5/10（火）～6/10（金））

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26本

専用ビームライン 17本

理研ビームライン 8本

加速器診断ビームライン 2本

第1サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数 183件

共同利用研究者数 775名

専用施設利用研究実験数 120件

専用施設利用研究者数 550名

第2サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数 333件

共同利用研究者数 1,604名

専用施設利用研究実験数 188件

専用施設利用研究者数 906名

◎平成23年6～7月の運転・利用実績

SPring-8は6月13日から7月8日までセベラルバンチ運転で第3サイクルの運転を行い、7月9日から7月10日の停止をはさみ、7月11日から7月29日までセベラルバンチ運転で第4サイクルの運転を実施している。第3～4サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

◎今後の予定

7月30日から9月23日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行う予定である。